

地域における日本語学習支援教室継続のための支援プログラムの作成

(一社)北海道日本語センター 大井裕子

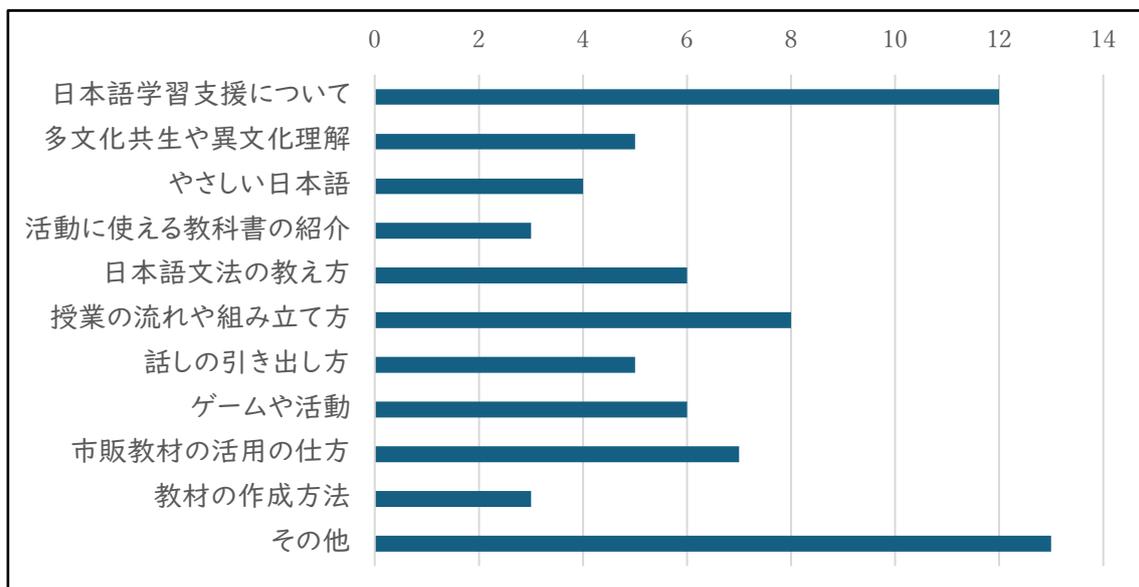
1. はじめに

北海道では、日本語学習支援者養成講座を行い、空白地域に対話交流型の日本語教室を増やしている。日本語教師や日本語教育の専門家が身近にいない地域では教室を継続するためには開設後も専門家による継続した研修が必要であると考え。では、どのような研修が必要なのだろうか、地域で活動している学習支援者はどのような研修を望んでいるのだろうか。日本語教室開設後の研修の内容を考えてみたい。そのため、まず、各地で行われている日本語学習支援者研修の中から、経験者向けの研修に絞って、内容を調査する。次に北海道でボランティア活動している人にとってどのような研修を受けたいのかアンケートを行う。最後に、これらのことからどのような研修を行えばよいのか、研修内容を考察する。

2. 各地で行われたボランティア経験者向け研修

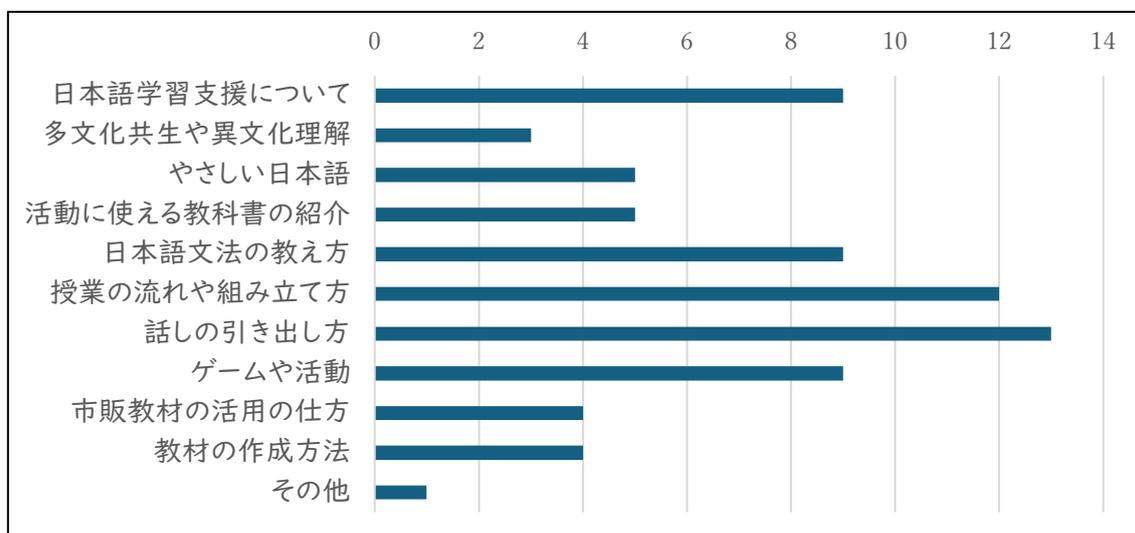
各地で行われている日本語学習支援の経験者向けの研修について調査した。毎年、多くの研修が行われているが、2022年～2024年の3年間に絞り、ネット上で検索できた32講座について内容を分類した。

俵山他が2008年と2013年に調査した日本語ボランティア養成・研修の項目としては「指導法」に関するものが一番多かったが、本調査では「日本語学習支援について」が一番多く、指導方法と思われる「日本語文法の教え方」はそれほど多くなかった。



3. 北海道における日本語学習支援者の希望する研修内容

北海道内における日本語学習支援者に希望する研修内容についてアンケート調査を行った。対象者は21人(項目は複数選択可の選択方式)と多くはなかったが、以下のグラフのように「話しの引き出し方」「授業の流れや組み立て方」が多かった。



4. 研修内容の考察

アンケート結果で一番多かった「話しの引き出し方」は実際の研修ではあまり多くなかった。研修の項目に関しては、全国の研修を収集したが、ボランティアへのアンケートを行ったのは、北海道内であった。北海道内では対話交流型の日本語教室に参加している人が多いことが、この結果に影響していることも考えられる。

この結果から、教室開設後の研修では「話しの引き出し方」についての項目を充実させることにした。では、「話しの引き出し方」ではどのような内容を扱えば良いのだろうか。これは、話しているテーマでどのように質問を広げつなげていくかではないだろうか。そこで、次のようなコツの使用方法の実践を考えた。

話しの引き出し方のコツ

- ・大→小へ: 「いつ」「どこで」など5W1Hの疑問詞を使って小さな質問をたくさん作る。
- ・近→遠へ: 自分の話から家族や友人の話へ、身近なことから一般的なことへ、近いところから遠くへと話題を広げる。
- ・現在→過去・未来: 去年は?子供のときは?10年後は?というように時間軸でも話を広げる。

研修では、まず、一つのテーマで受講者がペアになって話す。次に、その内容を思い返し、簡単にメモやマッピングスタイルなどで記述する。それから、「話しの引き出し方のコツ」について解説する。最後に、上記のコツを使えば、どの部分をどのように広げることができるのかをペアで検討することとする。